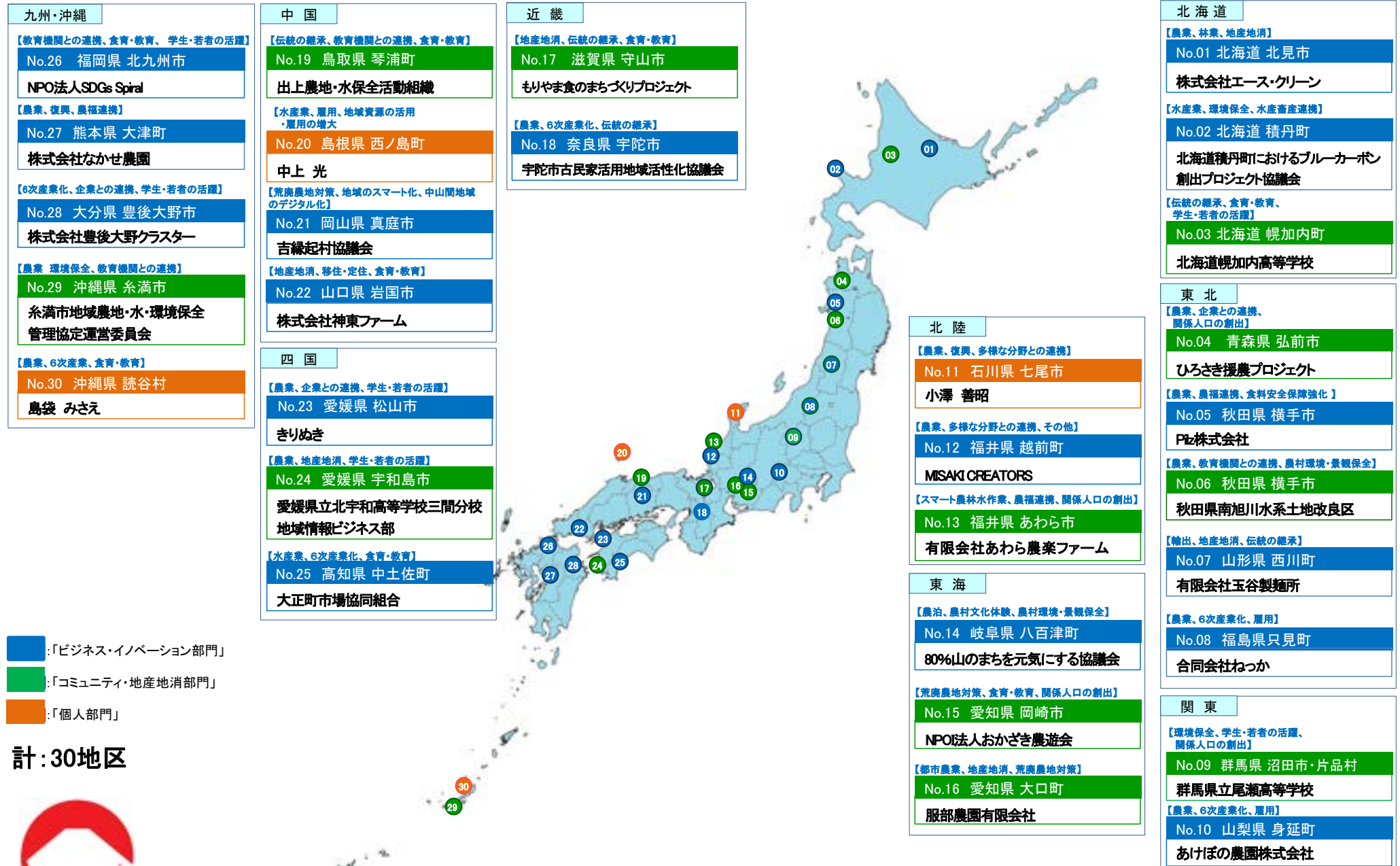


第11回選定の選定地区

令和6年11月25日

「ディスカバー農山漁村の宝」(第11回選定)選定地区一覧

むら





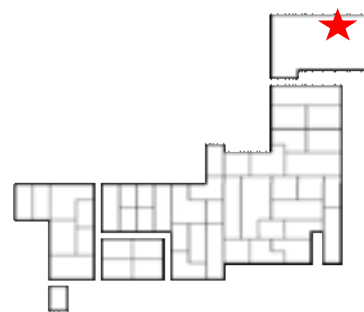
— 木から牛のエサを作るみらいプロジェクト —

ビジネス・イノベーション部門

農業

林業

地産地消



北海道 北見市

【概要】

- 国際情勢の変化や気候変動の煽りをうけ、輸入に大きく依存している家畜飼料価格の高騰が続いている。また、牛のゲップ由来のメタンガス排出問題も大きな社会課題となっている。
- 北海道林産試験場や帯広畜産大学、山形大学といった研究機関とともに、地方行政機関、地域木材を提供する木材業者、飼料消費者の畜産農家といった多角的な関係者とのチームにより未利用・低利用木材を活用した飼料の開発を推進。

【成果】

- 輸入飼料の高騰や環境への意識の高まりなど畜産業界への風当たりが強まる中、木質飼料の高い機能性（メタン産生低減）も相まって開始当初数件だった顧客が、令和5年には150件に増加。
- 高温高圧の水蒸気で加工する「蒸煮」という技術メリットを最大限に生かし、原材料は木と水だけながら飼料としての高い嗜好性と機能性、ユーザーの利便性を追求・実現したことで、発売当初（平成30年）135 t だった販売出荷量は令和5年には約3,000 t となり、売上は1.7億円に増加。



木質飼料キャトルエース



農場での給餌状況



自動包装施設



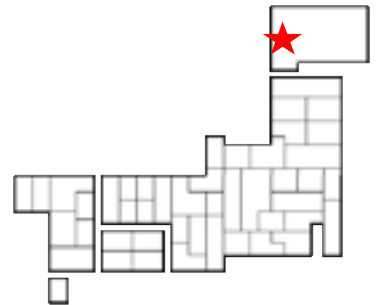
ウニから始まるSDG s

ビジネス・イノベーション部門

水産業

環境保全

その他（水産畜産連携）



北海道 積丹郡積丹町

【概要】

- 気象変動の影響もあり、「磯焼け」の拡大でウニの餌となる藻場が減少、漁獲量も徐々に減少。
- 海の森づくりとして藻場を食べ尽くすウニを除去し海藻の畑を作り、胞子を出すコンブを移植し、更にウニ剥き身後の殻を用いたコンブ用肥料を設置するなどウニと藻場の循環型再生産による持続可能な漁業を実践。

【成果】

- 平成21年から活動を実施し、令和5年度では1.45haのコンブ群落を再生。また、平成27年から「海中籠肥育」や「陸上畜養」による飼育技術の開発を行い、出漁が不可能な日でもウニを安定供給できる技術を確立。
- 造成された藻場ではウニ剥き身量は1.55倍となり、販売額約3,550万円の増加。再生藻場によるCO₂吸収量はブルーカーボンクレジットとして取引を開始。
- 畜産との連携として町内の農業法人が飼育する羊の餌に養殖コンブを与えたところ、肉質の向上につながり積丹町の名産品となる。



藻場の再生 左：磯焼け漁場、右：再生藻場



ウニ殻を活用したコンブ用肥料の開発



畜産との連携～コンブを餌としたコンブ羊



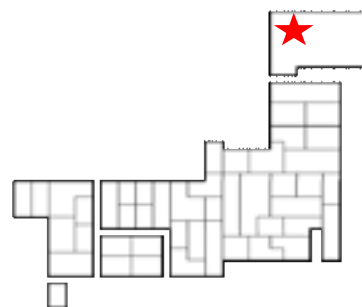
— そばを通して地域とつながり、世界へ羽ばたく —

コミュニティ・地産地消部門

伝統の継承

食育・教育

学生・若者の活躍



北海道 雨竜郡幌加内町

【概要】

- 冬期間の気候の厳しさ又多雪、酷寒と天候に左右される農業経営の難しさ、都市への流出により急激に人口減少。作付面積日本一の「そばの町」のそば打ち技術や伝統継承が課題。
- 平成14年から必修科目として「そば」の授業を新設。身につけた技術を活用し、全道各地のイベントにそば打ちの実演で参加、来場者に高い技能を披露。さらに、高校生が講師役をするそば打ち交流でも活かし、町内の小中学校とは継続的にそば打ちを通じた交流を推進。

【成果】

- 町民のそば打ち技術や伝統を継承した生徒は、全道協主催「そば道段位」の初段以上を全員が取得。部活動の「そば局」は全国高校生そば打ち選手権団体戦では過去4連覇を含む7回優勝。高い技術を持った生徒は卒業後にそば打ちを武器に活躍する事も多く、国内だけでなく海外でもそば職人として働き、幌加内町の観光資源である「そば」の素晴らしさを世界へと発信。
- 例年9月上旬に行われる幌加内町最大のイベント「新そば祭り」では、手打ちそばを2,000食以上販売、町内の小中学校や海外とのそば打ち交流のほか、地域と関わる機会も多く、人口減少の課題にも町民と一緒に取り組むなど地域に欠かせない存在となっている。



地域の方の指導を受け、段位取得を目指す



新そば祭り



令和4年度には全国大会4連覇達成



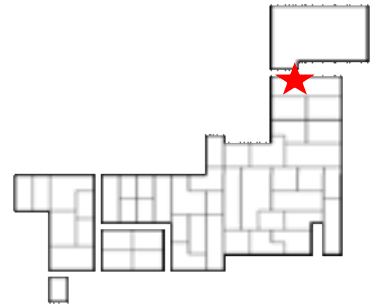
りんご産業を軸とした官民共創の輪

コミュニティ・地産地消部門

農業

企業との連携

関係人口の創出



青森県 弘前市

【概要】

- 日本一のりんご産地であるが、農業従事者の減少や高齢化といった問題があり、りんご産業の活性化及び関係人口の増加が課題。
- りんごが原料のシードルを製造・販売するニッカウヰスキー(株)及びアサヒビール(株)社員がりんご作業の援農ボランティアに令和2年度から従事。両社からの企業版ふるさと納税を財源に、両社と弘前市、(株)JTBによる官民連携の援農ツアーを実施。

【成果】

- 援農ボランティアを受け入れた29戸の農家からは本事業へ参加して良かったとの声が届くとともに、ツアー後に参加者から弘前市へふるさと納税が寄附されるなど関係人口の増加にも寄与。持続可能な活動への仕掛けのため、補助労働力不足の解消の取組として企業を認定する「ひろさき縁農サポーター認定制度」の創設につながった。
- ボランティア282名の参加により人手不足に悩むりんご農家の負担が軽減されたほか、約170名の参加者が宿泊したことで農を起点として宿泊・飲食業など観光振興や経済波及効果に貢献。



ツアー参加者がりんご収穫に勤しむ様子



企業版ふるさと納税寄附感謝状贈呈式



ボランティア終了後の集合写真



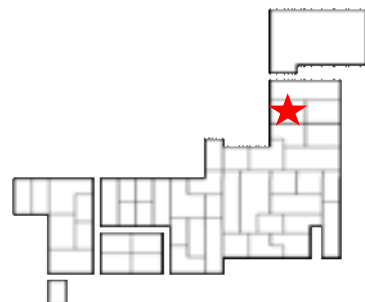
【農業×昆虫×福祉】新たな価値の創造

ビジネス・イノベーション部門

農業

農福連携

食料安全保障強化



秋田県 横手市

【概要】

- 椎茸生産後の菌床ブロックの廃棄物処理が問題。
- 令和3年に「秋田のしいたけ販売三冠王獲得事業」を利用し、椎茸の一環生産のできる施設を整備し、椎茸の生産を開始。椎茸収穫後の菌床ブロックの廃棄を事業者に依頼していたが、廃棄された菌床の山からカブトムシの幼虫を発見したこと、また、その菌床の山には草が勢いよく生い茂っていることに気が付き、廃菌床をカブトムシ飼育に使い、カブトムシの糞を野菜の肥料に使う廃資源を有効に循環させる取組みを開始。

【成果】

- 日本一美味しい椎茸づくりを目指し、菌床製造から一貫して椎茸を生産。菌床の材料には秋田県内の広葉樹のみを使用し、地下からくみ上げる深層水を用いて徹底した温度・湿度管理を実施し、秋田県知事賞を表彰されるなど高品質な椎茸となり、椎茸、菌床ブロック等の販売額は事業開始後3年間で1.4億円に増加。
- 自社及び近隣椎茸農家で廃棄していた菌床を、独自のプロセスでカブトムシ幼虫の餌に再加工し、販売するとともに、自社で飼育したヘラクレスオオカブトを販売、横手市のふるさと納税返礼品としても採用。



椎茸生産の様子



羽化中のヘラクレスオオカブトムシ



多肉植物育成現場の様子



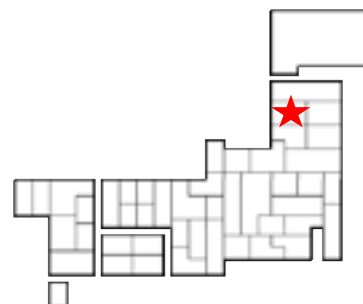
地域保全から学ぶ 学校教育のすがた

コミュニティ・地産地消部門

農業

教育機関との連携

農村環境・景観保全



秋田県 横手市

【概要】

- 都市化・混住化が進み、地域の農業や歴史ある農業水利施設の保全が課題。
- 地域住民に対して、土地改良施設や農業への理解の醸成が必要不可欠と考え、地域との関わりについて模索。地元小学校を対象として農業への理解醸成に取り組むことで、10年先20年先の将来に繋がる活動が出来ると大いに期待し、平成16年より小学生を中心とした施設体験学習等をスタート。

【成果】

- 管内2つの小学校児童を対象にダム～頭首工～水路を見て回る施設体験学習会を開催し、毎年100名を超える児童が参加。国営事業所との連携により、水資源の大切さ、農業水利施設の役割、地域と水の関わり、用水路への転落防止などの普及啓発を行い、理解の拡大。
- 長年にわたり小学生の学校農園、植栽、田植、稲刈り、地域の郷土食である横手焼きそばを身近に感じてもらう取組として焼きそばに入れるキャベツの栽培など農業体験を行っている。参加者は少しずつ増えてきており、令和5年度には2,629名が参加。



新一の堰頭首工見学



サツマイモの植付け



泥んこドッジボール



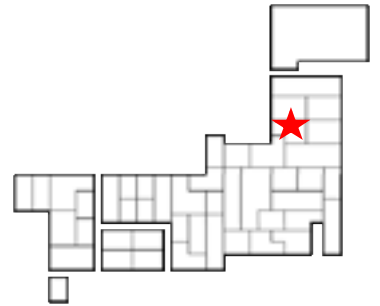
山形で採れる食材をフル活用して全世界へ

ビジネス・イノベーション部門

輸出

地産地消

伝統の継承



山形県 西村山郡西川町

【概要】

- 持続可能な農業を応援するために、本来市場に出回らない農作物の利用が重要。
- 東日本大震災を受け「世界でここでしか創れない食開発」を目標にかかげ、平成26年「雪結晶パスタ」を開発し、その後にお客様の声を反映したアートパスタの技術を構築。利用予定のないビーツペースト、摘果ラ・フランスなど廃棄していた素材や山形県産農産物を練込み、日本の四季や山形の産物、歴史文化を象ったストーリー性のあるアートパスタを製造し販売。

【成果】

- 平成27年に野菜のビーツで桜色に染めた「サクラパスタ」を開発したことで、不揃いなビーツの利用につながり、ビーツの作付面積が2倍に増加。このサクラパスタを筆頭に世界15カ国まで輸出が拡大。
- 令和3年に開発した「将棋駒パスタ」は、本来廃棄されていた「摘果ラ・フランス」を利活用。130万円の農家の副収入につながったことで、営農意欲が向上し、農家を続けたいとの声も聞かれるようになる。ラ・フランス風味でポリフェノール、GABAの有意義な成分が含まれたパスタは将棋界の盛り上がりとともに販売が増え、令和5年度は15,000袋販売。



ビーツの生産者者さんと一緒に



ビーツで色を付けたサクラパスタ



天童市の摘果ラ・フランスを入れた将棋駒パスタ



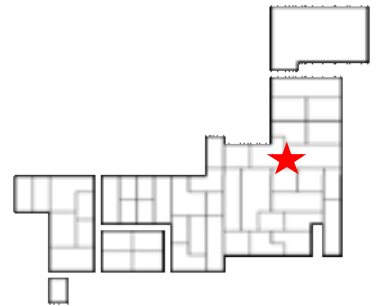
— 「楽しいを形にし、想いを次世代につなぐ」 —

ビジネス・イノベーション部門

農業

6次産業化

雇用



福島県 南会津郡只見町

【概要】

- 只見町は東京都23区と同じ面積を有しながら、人口が3,500人で高齢化率が49%と、少子高齢化が進んでいるため、耕作放棄地の増加が課題。
- 酒米生産の農業と酒造業で通年雇用を生み出すため、米農家4名と醸造家1名で合同会社を設立。「日本酒」、「焼酎」の製造免許の新規交付が認められていない中、町の特産品である米を使用することで、福島県初の「特産品焼酎免許」を取得。JGAP 認証の自社圃場で栽培した米を活用した米焼酎製造を中心としたアルコール飲料を製造。

【成果】

- 吟醸香の香り高い米焼酎の製造に成功し、国内外で数多くの賞を受賞。
令和3年に、国内第1号となる「輸出用清酒製造免許」を取得し、香港をメインに販売開始。毎年順調に販売実績を伸ばし、令和5年度には8,600万円を売上。
- 酒造業により冬期間の雇用が生まれ、冬期の作業がない農業と併せての通年雇用ができたことから、マルチワークを支援する只見働き隊事業協同組合を含めて、UIターン者9名の雇用を創出。



ノンプラスチック肥料での田植え



18歳の酒プロジェクト



ロンドンでの試飲会



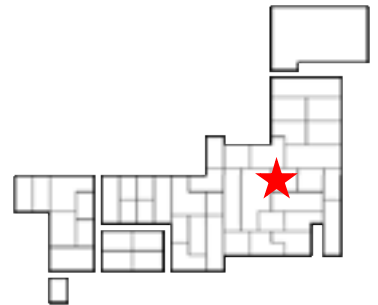
— 自然と共生できる人づくりが地域を支える！ —

コミュニティ・地産地消部門

環境保全

学生・若者の活躍

関係人口の創出



群馬県 沼田市・利根郡片品村

【概要】

- 高齢化が進む山間部地域の活性化と自然保護の意義を広め、普及することが課題。
- 平成8年に自然を活用したフィールドワーク中心の教育を展開する自然環境科を全国で初めて設置、尾瀬ヶ原を中心とした豊かな自然を学び、自然保護の普及活動を行っている。自然環境をフィールドにした「探究的な学び」を受けたい子どもたちが、全国各地から入学できる制度として地元家庭等へのホームステイ制度「尾瀬ハートフルホーム・システム」を整備。

【成果】

- 地元団体との協働によりシラネアオイ保護活動を30年以上行っているほか、水芭蕉栽培・育成を行う水芭蕉プロジェクトには地元企業3社と連携、100名が参加。「自然と共生できる人づくり」を通じて、机上の学びでは得にくい自己有用感等の向上。柔軟なアイデアの提供と実践活動をととして地域を元気にし、卒業生の多くが地域活性化のために活躍。
- ホームステイ制度により毎年10名前後の生徒が各地から入学、生徒とその家族にとって、本地域が第2の故郷となるなど関係人口の創出に貢献。



環境省との連携によるシカ防御柵設置



シラネアオイ移植作業



地域との交流 道の駅尾瀬かたしな



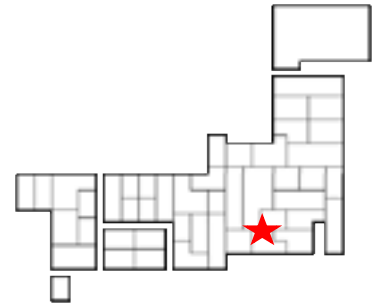
— 日本一の枝豆・大豆を山梨県身延町から！ —

ビジネス・イノベーション部門

農業

6次産業化

雇用



山梨県 南巨摩郡身延町

【概要】

- 長年、身延町内で栽培されてきた大豆は高品質であるが、知名度が低かった。
- ブランド大豆として「あけぼの大豆」を世に広めるため、令和3年に法人を設立、「身延町あけぼの大豆拠点施設」の指定管理者となり、6次産業化による自社で生産した無添加の加工品を製造販売し、あけぼの大豆を普及推進。

【成果】

- 令和4年にGI産品として登録し、生産作付面積は令和元年度の130aから令和5年度には約2倍の280aに拡大し、売上は3,000万円に増加。
小学校や高校、大学、福祉施設、プロサッカーチームなどと農業分野で連携を図るほか、三越、伊勢丹、大丸、JR東日本など大手取引先を開拓し、あけぼの大豆の魅力を伝える。
- あけぼの大豆を利用した「あけぼの大豆味噌」はふるさと納税の返礼品としてトップクラスの人気を誇り、「しっとり焼き大豆」、「枝豆ジャンボシュウマイ」はグルメ関係の表彰を受けるなど高評価を受ける。



あけぼの大豆 枝豆収穫の様子



EU農業委員会 視察受け入れの様子



AI選別の様子



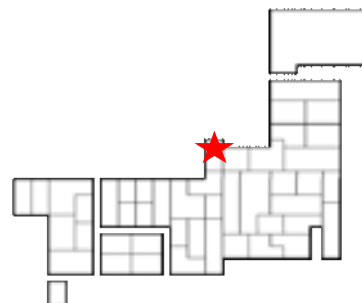
— 能登里山里海総合コーディネーターを目指す —

個人部門

農業

復興

多様な分野との連携



石川県 七尾市

【概要】

- 能登地方における地域振興や活性化が課題。現在は震災後の復旧・復興を目指す。
- 11年前にシステムエンジニアを退職し、新規就農。4年前よりSNSにおいて日々の活動や能登の情報発信を本格開始、前職システムエンジニアの経歴を活用し農業とIT/ICTとのイノベーションの可能性を模索、タイやカンボジアとの交流を行うほか、小規模水稻農家の持続可能性や農業の栽培技術やノウハウ等の論文化を模索するため、多様な者とのつながりを構築している。

【成果】

- 国内お米の各種コンテストに積極的に出品し、複数の表彰を受賞するなど、能登の水稻農家として評価されたほか、Facebookによる投稿は年間400～500回行い、能登の水稻農家としての認知度も向上。
- 東南アジアにおけるビジネスの展開をするため、タイやカンボジアとの交流を行い、営農指導や情報交換を行っている。



タイ・バンコクでの農作業の様子



プロフィール画像



受賞した品質評価証



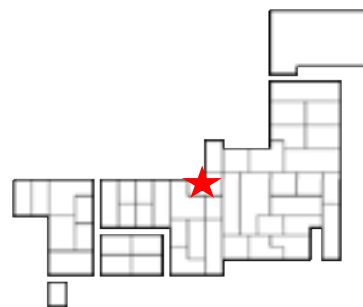
越前水仙 みんなの力で100万本再生！

ビジネス・イノベーション部門

農業

多様な分野との連携

その他（トキ・イミ消費型の新しい市場の開拓）



福井県 丹生郡越前町

【概要】

- 福井県花の越前水仙は、過疎高齢化による担い手不足やシカの食害により生産量が大きく減少。
- 地元集落や自治体、福井県立大学地域経済研究所と連携して資源の未来に可能性を求める人や企業を結集するプロジェクトとして「MISAKI未来農園」を設立。MISAKI CREATORSが人や企業のプラットフォームとなり維持管理が困難になった水仙畑の生産を代行したり、獣害や長年の放棄で荒れた状態から再生を行う。

【成果】

- 令和5年の冬は越前水仙の花弁市場への出荷が1万5,000本を突破し、産地全体の2%を底上げ。シカの食害にあう球根の増殖を獣害リスクのない市内の大学で学生が行うなど、長年の課題を既存の枠組みにとらわれない新しい力が融合して解決しながら前進している。
- 試行から参加している県内企業は水仙畑の生産代行に社員を挙げて作業を推進、福井に支店を置く上場企業社員のボランティア参加、フットサル女子日本リーグのチームの水仙柄ユニフォームなど多様な分野との連携が強化。



海を一望する畑で草刈り



RUCKの公式戦で行われた応援水仙PRイベント



圃場を整備する学生たち



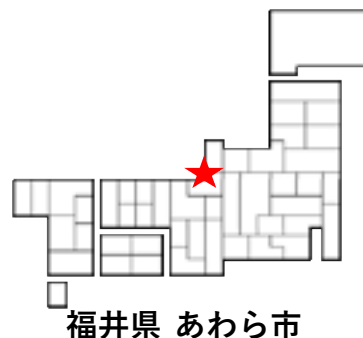
— スマート農業による農福連携でSDGs(ノーマライゼーション)の実現 —

コミュニティ・地産地消部門

スマート農林水産業

農福連携

関係人口の創出



【概要】

- 「高齢化・後継者不足となっている地域農業の担い手」と「療育の一環として障がい者に農業を通じて働く場」が必要。
- 平成13年に会社を設立し、施設外就労で障がい者を受入れ農福連携に取り組む。全国に先駆けGPSを活用したスマート農業を導入、令和4年からは農業試験場とロボット田植え機、アシスト付きコンバインの実証試験を行う。

【成果】

- スマート農業等で農業に科学的な視点を積極的に導入し、高品質で安心な「農産物」、「生産工程」の安全性が高まり、GH評価905点のリスク削減となる。実証試験では、熟練オペレーターとの作業時間は10a当たり4～6分の差があったものの障がい者の自信や意欲の向上及び新規農業者が参入しやすい環境づくりに寄与。また、農福連携、情報通信技術(KSAS)の活用、国内肥料資源を活用した特別栽培農産物等で食料の安定供給及び自然環境にやさしい農業等のSDGsに取り組む。
- 農産物等は病院、福祉施設、外食事業者や量販店、ふるさと納税等で高い評価を得て完売し、年間売上は1.9億円。施設外就労の受け入れ人数は令和5年度には12人に増加、過去10年間で一般就労に移行したのは5人と障がい者の安定的な就労先として貢献。



刈払い機労働安全衛生教育研修



農福連携によるスマート農業



農福連携で生産した主なノウフク商品



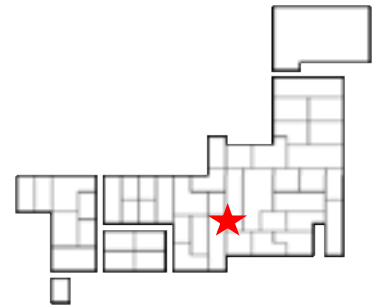
— 大自然に育まれた八百津「あるべき姿」を考える —

ビジネス・イノベーション部門

農泊

農村文化体験

農村環境・景観保全



岐阜県 加茂郡八百津町

【概要】

- 人口減少により存続の危機に瀕する祭りの保存活動、かつて生活道として使用されていたが放置されている古道の整備など、自然環境、歴史・文化の保存が課題。
- 宿泊関係者、飲食関係者、体験提供者の12団体で協議会を設立し、観光資源の開拓・開発と来訪者の滞在時間を伸ばす「農泊」事業に取り組んでいる。八百津町の今につながる文化と歴史を体験型ワークショップにまとめ、長期滞在ツアーに詰め込んで提供する農泊実施体制を確立。舟運で栄えた歴史、八百津祭り、事業の発展など、ストーリーをつなぎ合わせ、それぞれの事業、取り組みに関連性を持たせて発信し、訪問者の興味を広げるきっかけとして活用。

【成果】

- 木工体験、地酒などテーマごとの専門家による体験イベント、地元住民による町内ガイドツアーにより、地元住民と触れ合うことで参加者に地元の空気感が伝わり、なつかしくて新しい「山と共に生きる八百津の暮らし」のファンとなり、関係人口の増加につながっている。
- 事業開始から2年目で宿泊者は1,038人、宿泊等の売上は1,316万円と順調に伸びている。



藤ツルの活用と山の祭りを知る体験



地酒体験イベント地酒試飲体験



簡易製材機を使用した、製材・木工体験